

荒畑氏らも出席して 大杉栄らの墓誌除幕

51.9.17 毎日

「大杉栄ら墓誌建立委員会」

「近藤真柄代表」が募金運動してこのほど完成したもので、墓誌を刻んであるのは畳半分のスウェーデン石。

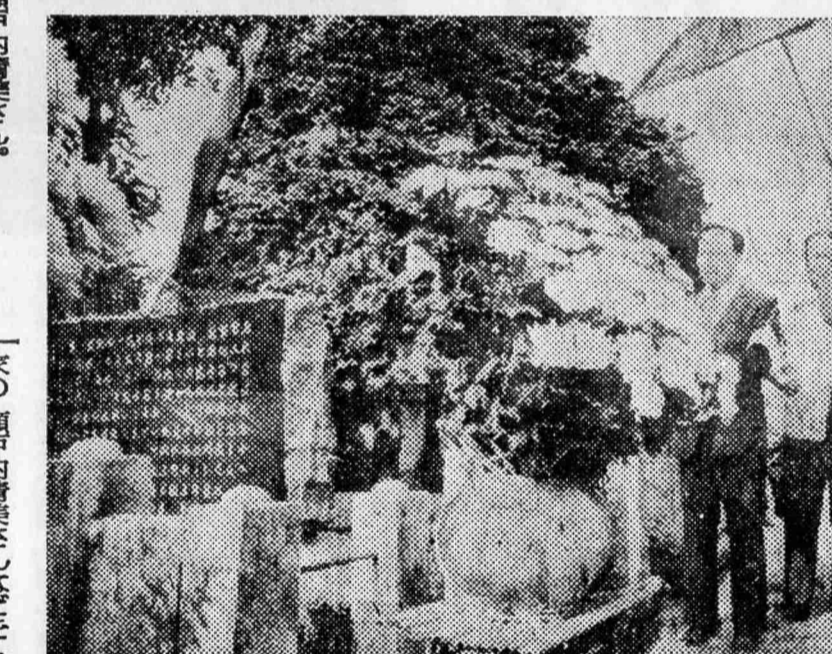
大杉らの墓誌の前であいさつする荒畑寒村さん（左は近藤真柄さん）

「大杉栄ら墓誌建立委員会」

「近藤真柄代表」が募金運動してこのほど完成したもので、墓誌を刻んであるのは畳半分のスウェーデン石。

大杉らの墓誌の前であいさつする荒畑寒村さん（左は近藤真柄さん）

「大杉栄ら墓誌建立委員会」



大杉栄の墓誌除幕式であいさつする荒畑寒村氏（右）、左側の黒い石碑が墓誌

大杉栄の墓誌除幕

荒畑寒村氏らを迎えて

51.9.17

五十三年前、関東大震災の混乱にまぎれて憲兵隊に虐殺された無政府主義者大杉栄、大杉の内妻伊藤野枝、おのの橋宗一らの墓誌が完成し、十六日静岡市沓谷の静岡市立公園で除幕式が行われた。

除幕式には、墓誌建立に努力した福田武寿富士地区一般産業合同労組委員長、大杉の同志だった大塚昇氏や関係者ら約百人が出席した。

アナキストの象徴の黒旗の下で墓誌の文章を書いた社会主義者の草分け荒畑寒村氏が「今でも反民主勢力が暗躍しており、こうした動きをなくすためにも大杉虐殺の歴史を風化させてはならない」とあいさつ、参列者一同、感慨を新たにしていった。

この後、墓誌建立委員会のメンバーの一人、寂庵尼（作家・瀬戸内晴美）の読経の中を出席者が

大杉栄らの墓誌除幕式

51.9.17 静岡市

「静岡」関東大震災後の混乱の中で、軍部、官憲に虐殺された無政府主義者・大杉栄と妻・伊藤野枝、おのの橋宗一の墓誌除幕式が、大杉らの五十三回忌にあたる十六日、静岡市沓谷、沓谷公園の大杉らの墓地で行われた。

同墓誌は作家の瀬戸内晴美さんらを含む「大杉栄ら墓誌建立委員会」（近藤真柄代表）が建立を進めてきた。黒のスウェーデン石を奪い去るといふ事件が起こった。

（縦六十センチ、横一メートル）に、社会主義運動家・荒畑寒村氏の文章による三百字の碑文が刻まれ、「……惜しむべし雄志逸材むなしく中道に潰ゆ」と結んでいる。

式には瀬戸内さん、荒畑氏、大杉の遺児ら約百人が参列、建設までのいきさつの説明のあと、荒畑氏が「反民主主義勢力が現存する以上、大杉らの虐殺の記憶を風化させてはならない」と力強くあいさつ、瀬戸内さんも「権力の横暴を忘れてはならない」と述べた。

最後に瀬戸内さんの読経の中で参列者が献花、めい福を祈った。

大杉栄の墓誌除幕

虐殺への憎しみ新た
荒畑寒村氏が筆とる

静岡市

関東大震災の混乱の中、虐殺された大杉栄、伊藤野枝らの墓誌の除幕式が十六日午後、大杉の墓のある静岡市沓谷の沓谷公園で行われた。この日は大杉栄の五十三回忌の日。式には「美は乱調にあ

アナキストの旗手、大杉栄虐殺の記録を記した墓誌がこのほど完成、命日の十六日、静岡市沓谷一丁目、沓谷公園にある大杉栄の前で

除幕式があった。

四十八年、大杉栄五十年忌記念集の席で「大杉栄らの墓誌建立委員会」が発足した。

元婦人権者同盟会長の近藤真柄さんを代表に、かつての盟友荒畑寒村氏や作家の瀬戸内晴美さんらが中心となって募金運動。全国各地から集まった約百万円を基金に、やっと完成にこぎつけた。

この日午後二時から始まった除幕式には近藤、荒畑、瀬戸内氏らのほか、運動に協力した静岡県評（勝又武一議長）など関係団体の代表三百人以上が参列。難を逃れた大杉の遺児、菅沼幸子さん（神奈川県藤沢市）と野沢笑子さん（山口県下関市）が除幕したあと、瀬戸内さんの読経が流れるな

か、参列者は次々と菊の花をささげ、三人のめい福を祈った。

墓誌には「大杉栄は明治十八年軍人の家に生まる……資性剛毅、才華煥発、無政府主義の一派を拓いて政府の弾圧に屈せず幾度か牢獄の苦を忍び追雪の鉄火を跋めり……関東大震災に遭遇して妻の伊藤野枝、甥の橋宗一と共に軍憲のために虐殺せられ、惜しむべし雄志逸材むなしく中道に潰ゆ」とある。

簡略な碑文のなかに、逆らう者にはためらわずに死を宣告した暗い時代に対する憎しみ、無念の最期を余儀なくされた友への哀悼、かつては同志でもあった荒畑寒村翁が万感の思いをこめた。

51.9.17 朝日

遺児迎え命日に除幕



静岡、大杉栄の記念碑

大逆事件で軍部に殺害された無政府主義者大杉栄の墓誌（記念碑）が静岡市・沓谷公園にある墓

大杉栄の墓前に献花する瀬戸内晴美さん。中央に記念碑が見える。静岡市沓谷公園

無政府主義者、大杉栄の運動の足跡の中に、静岡県は入っていない。が、静岡市内には大杉の墓があるなど関係もあり、また、当時の本県の運動史に少なからぬ影響を及ぼしていた。大杉栄の五十三

年、四十九歳で死亡した。この時、栄は前年六月に起こった「赤旗事件」で入獄中だった。父親の遺骨は清水市にある名刹・鉄舟寺に納められた。（後に、現在大杉栄らの墓がある静岡市沓谷公園に

同月二十五日、北一輝の説得を受けて犯人が自首したものの、同志らが遺骨をもらい下げに行った同二十七日は、たまたま「虎ノ門事件」（現政・現天皇）が帝國議會開院式に向かう途中、狙撃された事件が発生した日で、警視庁はテンヤワンヤ、結局遺骨が戻ったのは、翌年春になってしまった。

自由恋愛の方が有名？

大杉栄 墓碑除幕式に女性の姿



大杉栄の墓碑除幕式—静岡市で

大杉はまた、堀保子、神近市子、伊藤野枝らとめぐる「自由恋愛」の旗手としても有名。堀利彦の先妻の妹・堀保子との場合は、静岡市出身の社会主義者・深尾淵と、恋の戦いを演じ勝つていった。

深尾は庵原郡の小学校で代用教員などをして、「社会主義伝道行商」や日本社会党結党届を提出したことで有名だが、やがて病氣や思想的対立、恋に破れたことなどが重なり社会主義運動から身をひいた。

「この直後『赤旗事件』『大逆事件』などが相次ぎ、活動家らが大量投獄され、日本の社会主義運動は暗い谷間の時代を迎えることになる。」

51.9.17 東京新

回忌にあたる十六日、静岡市に大杉の墓が建てられたのを機に、県とかかわりを探ってきた。

大杉栄の父・東は陸軍少佐だった。日露戦争で負傷、退役後は、清水市三保に住み、明治四十二

移された。

大正十二年九月十六日に殺された大杉栄らの遺骨は一時、東京・神田の労働運動社に安置された。そして十二月十六日、告別式の当日、会葬者にかんじた右翼が遺骨

を奪い去るといふ事件が起こった。